

結核予防週間に寄せて



結核研究所

所長 加藤 誠也

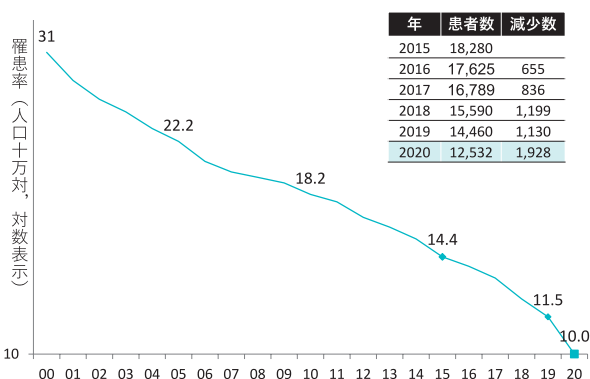
はじめに

従来の結核予防週間は、前年の結核登録患者情報システムからのサーベイランスデータがまとまり、それを元に対策を議論する機会となっていたが、本年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を抜きに語れない状況である。

予防指針の目標とCOVID-19

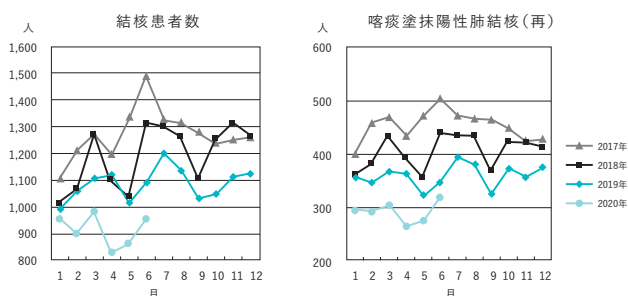
2019年の罹患率は人口10万対11.5であり、「結核に関する特定感染症予防指針」の目標である2020年までの低まん延化の実現は困難な状況と思われた（図1）。

図1. 罹患率の推移と予防指針の目標達成



ところが、COVID-19流行の影響で結核患者の報告数が減少しており、月報を1月から6月まで積み上げた患者数は2019年が6,853人であったのに対して、2020年は5,963人と13%減少しており（図2）、2020年6月

図2. 新登録結核患者数、月別、2017-2020年



までの年換算罹患率は人口10万対9.5になる。しかし、この数値は本来発見されるべき患者が診断されないためによるもので、真に結核患者が減少したのではない。

COVID-19の影響による登録者の減少について、本誌7月号に結核研究所の内村による分析があるが、健康診断が4月以降一時的に中止されたことから、特に学校健診や施設健診からの患者発見が著しく減少した。また、保健所における結核の接触者健診が十分に実施できなかったことによる発見の減少が認められた¹⁾。これらの法令に基づく健診はいずれ実施され、患者は発見されるはずであるが、それまでの診断の遅れが感染拡大を引き起こす可能性もある。

世界におけるCOVID-19の影響

WHOは高負担国を中心にCOVID-19の結核対策への影響についての調査を実施した。多くの国でスクリーニング活動の停滞や医療機関への受診困難が原因で患者発見が減少している。また、治療薬・診断薬の購入・供給の問題で在庫切れの発生、さらには、結核対策の人員・予算や機材COVID-19対策に用いたこと（例：結核菌検査用のGeneExpert[®]にCOVID-19用のカートリッジを使ってPCR検査を実施）によって、結核医療が十分に行われない状態が起きている。WHOはモデル計算によって、患者発見が25%減少した状態が3か月以上続くと、死亡者が19万人増加し、これは対策が5年分後退することになると警告して、COVID-19対策と連携しながら結核対策を適切に実施するように求めている²⁾。

外国出生者対策への影響

近年のわが国における重要な課題の一つが外国出生者への対応である。国は日本における患者数が多い上位6か国（フィリピン、ベトナム、中国、インドネシア、ネパール、ミャンマー）を対象に入国前スクリーニング事業を本年7月から開始する予定であった。具体的には、これらの国から日本に90日以上滞在するため

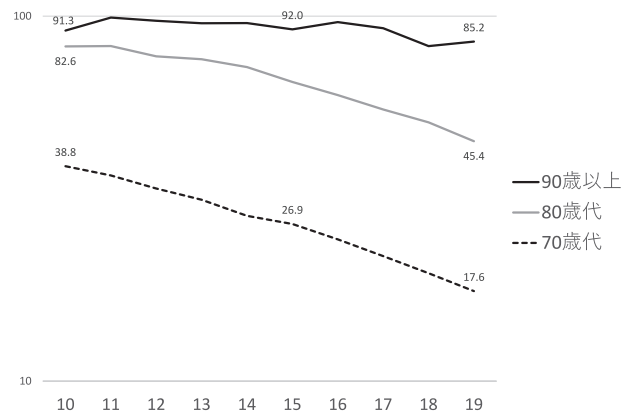
のビザ取得条件として、それぞれの国において日本政府が指定した医療機関が発行する結核非罹患証明（または治癒証明）の提出を求めるものである。結核研究所に「入国前スクリーニング精度管理センター」を設置したが、これらの国からの入国が実質上できないために、開店休業状態になっている。2020年には新入国者が極めて少ないために、外国出生結核患者は減少する可能性がある。しかし、将来的に少子高齢化が進展する中で、労働人口として外国出生者に頼る必要があり、欧米の先進国のように結核患者の大半を占める時代が来る可能性が高いことから、入国後のスクリーニングや有症状者の早期受診・早期発見、治療完了までに患者中心のサポート体制の確立、帰国が必要になった場合の照会システムなど多くの課題に対応する必要がある。

高齢者対策

図3は高齢年代の罹患率の推移を対数グラフで示したものである。70歳代と80歳代は罹患率の低下傾向に較べると、90歳代の低下は小さく、高まん延期に感染を受けた既感染率が著しく高い世代になったことがわかる。高齢者施設における集団感染も散見されることから、もうしばらくは十分な対策が求められる。国は2018年に高齢者の患者発見のため、健康診断に関する通知を発出し、特に80歳以上の人々に焦点を当て、①個別勧奨の実施、②受診機会拡大のために個別健診の推進、③対象者への勧奨に注意事項を示した。また、介護サービスの利用者に対して、自治体を実施する結核定期健康診断の機会を利用して、健診の受診を促す通知を出した。これらは、施設や地域における二次感染を防ぐためにも重要な対策と考えられる。

高齢者施設においてはCOVID-19の侵入を防ぐために、入所者への面会の制限、職員の健康管理の強化などが行われているが、結核、その他の感染症を含めた施設内感染対策の総合的なマニュアルや指導が望まれる。

図3. 年代別罹患率の推移



おわりに

結核は国内において、14,460人の患者が発生しており、そのうち、高齢者を中心に2,000人以上の死亡が報告されている。世界では1,000万人の新発生患者と145万人の死亡が推定されている重要な感染症であることには変わりない。COVID-19の世界的なパンデミックの中において、いずれの感染症にも十分な予算や人員を確保して、確実に対策を実施していく必要がある。🐼

【参考資料】

- 1) 内村和弘. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が結核患者登録に及ぼす影響について. 複十字2020; 393: 3-4
- 2) Philippe Glaziou. Predicted impact of the COVID-19 pandemic on global tuberculosis deaths in 2020. <https://www.medrxiv.org/content/10.1101/2020.04.28.20079582v1.full.pdf>